進路だより『COMPASS』

郡山市立小原田中学校
令和２年　５月２５日
第１号　文責：箭内直行

自分の進むべき道を見つけよう

「進路」には“人が将来進む方向”（大辞林より引用）という意味があります。１年生の皆さんはこれから３年間で、２年生の皆さんはこれから２年間で、そして３年生の皆さんは最後の１年間で、自分が将来どの道を歩んでいくのかを決めることになります。「まだまだ先のこと・・・」と言わずに、自分の進路について少しずつ考えてみてください。３年生の皆さんには、一回目の進路希望調査を書いて提出してもらいますが、現段階の希望で構いません。６月１日（月）までの提出になります。その際、保護者印を忘れずに押印してください。期日厳守でよろしくお願いします。

＜どんな県立高校があるのか＞

■　課程：県立高校には全日制・定時制・通信制の課程があり、それぞれ次のとおりです。

課　程	特　　色
全日制	平日の昼間に授業が行われることを前提にした、通常の高等学校の課程。
定時制	主に働きながら学ぼうとする者を対象にして、夜間など、特別の時間帯に授業を行う課程。
通信制	主に学校への通学が困難な者を対象にして、郵便又はラジオ、テレビなどの通信手段を用いて指導を行う課程。

■　学科：県立高校の学科の種類には普通科・専門学科・総合学科の３つがあります。それぞれの特色及び福島県立高等学校において設置している学科（大学科）は以下の表のとおりです。

		特　　色	福島県立高等学校において設置している大学科
普通科		高校生としての幅広い一般教養を身に付けながら、進路に応じた学習をするための学科	
専門学科	普通系	英語やスポーツ、芸術など、興味・関心のある内容をより高度に学習できる学科	理数科、英語科、文理科、国際文化科、体育科、美術科、国際科学科
	職業系	将来のスペシャリストとして必要な専門的内容の基礎・基本を学ぶことに重点を置いた学科	農業科、水産科、工業科、商業科、家庭科
総合学科		普通教育の科目及び専門教育の科目について幅広く総合的に学ぶことができる学科	

■　大学科と小学科：大学科とは、専門学科の中で設置されている大きな区分の学科です。たとえば、清陵情報高校で設置している専門学科の大学科は「工業科」と「商業科」ですが、設置する小学科は、工業科では「情報電子科」と「電子機械科」、商業科では「情報処理科」と「情報会計科」です。ただし福島南高校の文理科や国際文化科のように、大学科の名称と小学科の名称が同じ場合もあります。

＜通学区域について＞

■　通学区域：全日制課程の普通科については、保護者が住んでいる区域（市町村）がどこかによって、出願できる高校が限られています。ただし、例えば県中学区の区域に住んでいる場合でも、隣接する通学区域である県南学区の高校の普通科に出願することが可能です。その場合には「隣接学区からの出願」扱いとなり、募集定員の２０％の範囲内でしか入学が認められません。

それ以外の専門学科、総合学科、定時制及び通信制の課程については、保護者が県内のどの市町村に住んでいても出願できます。

＜体験入学について＞

■　各高校では、学校紹介、体験授業及び進路相談等を内容とする体験入学を実施しています。毎年夏休みの期間を利用していますが、今年度はどのように実施されるのかまだ分かりません。実施時期、内容等が分かりましたらご連絡さしあげたいと思います。

＜昨年度の高校入試について＞

令和２年度高等学校入学試験では、県立高校において新しい入試制度が導入されたことから、これまでの入試の状況と違った点がありました。(新しい入試制度については、次回で触れたいと思います。)

（１）私立高校の専願により、早い段階で私立高校への進学を決めた受験生が多かった。
（県立高校は受験せず、私立のみの受験）

（２）私立高校進学者が多かったことから、県立高校の受験者が減り、郡山市内の県立高校の志願倍率が下がった。

①　安積、安積黎明、郡山東などの普通高校の志願倍率が1.11～1.28倍となり、例年よりも低倍率となった。郡山高校が1.41倍で最も高くなった。

②　郡山商業高校情報処理科、郡山北工業高校機械科、電気科、電子科、情報技術科、化学工学科などで定員割れとなり、後期選抜を実施した。

（３）郡山市外でも定員割れする高校が多かった。

以上のことから、次のことが考えられます。

（１）私立高校志向は続くのではないか。

（２）普通科志向が強いのではないか。

これからの進路を考える上で、参考にしてみてください。